

先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）
中間評価結果

機関名	広島大学
事業概要	<p>自然科学研究支援開発センター（N-BARD）の機器共用・分析部門を中心とした学内の共用機器管理体制を確立する。事業期間中に、全学共用機器管理・運営の改善・改良を加えながら新体制による共用機器管理・運営を定着させる。</p> <p>特に、「デジタルものづくり教育研究センター」が保有する工学基盤機器の地域企業との共用化を促進し、コーディネーターと技術職員が協働する体制を整備する。</p> <p>中国地区全体で最先端機器を共用するための連携体制を強化する。</p> <p>先行してコアファシリティ事業を進めている山口大学と連携し、技術職員の人材育成・キャリアパス形成を、大学をあげて支援する体制を整備し、持続的に研究支援の質が向上する仕組みを作る。</p> <p>上記の活動を通し、自立的な運営を可能とするコアファシリティを構築する。</p>
評定（総合評価）	コメント
A	<ul style="list-style-type: none"> ・工学基盤機器の共用化体制の整備と、年間契約による機器利用によって民間企業の利用料が倍増し、事業の継続性が確保できつつあることは高く評価できる。 ・内閣府事業と巧く連動させて相乗効果を上げている。 ・中国地方という広いエリアの中核機関として、一層のDX活用の余地がある。 ・今後、技術職員全体に対する人材育成体制強化、更なる学外利用促進、国際的な視点からの卓越性に係る取組などに期待したい。 ・他のコアファシリティの取組も参照し、取組・変革を加速いただきたい。
評定（個別評価）	
① 進捗状況	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね適切に事業管理が進められている。 ・利用料収入2倍という目標に対し、期間前倒しで実現した点は素晴らしい。 ・構成員の意見を取り入れ、計画を柔軟に変更しながら目標を達成しようとしている点は評価できる。
② 経営戦略	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・理事を長とした研究設備サポート推進会議を設置するなど、研究設備・機器群の整備、共用運用が概ね適切に行われている。 ・本事業でのファンドを活かし外部資金の導入を増やす戦略が成功していると評価される。今後の中国地方コアファシリティネットワークの活用計画にも共感できる。
③ 実施体制・仕組み	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・N-BARD 共用部門で全学共用機器を一元管理、コアファシリティ推進室で技術職員主体の運営を行うなど順調である。 ・機器の共有化を進めるとともに、機器の老朽化や稼働率の少ない設備を全学共有から外すなどの見直しを毎年行い、機器の更新に務めている点も評価できる。 ・中国地域組織としっかりと連携し、理想的な体制である。 ・経営の観点で学長が自ら指導力を発揮する仕組みの構築に期待したい。
④ 人材育成	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・論文への謝辞又は著者欄に技術職員名を記載することの徹底を組織的に行っており評価できる。一方、育成がコアファシリティ推進室に参画する機器共用関係の技

	<p>術職員に限定されているように見受けられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術職員に大学運営的な視点を持たせるためのコアファシリティ推進室活動を導入したが、このパスを有機的に活用していくためには、技術職員のボトムアップアイデアのみでなく、組織としての戦略も必要と思われる。 ・技術職員のキャリアアップに向けた支援の状況や持続的な人材育成方針についてもう少し具体的になるとよい。
⑤ 資金計画	コメント
S	<ul style="list-style-type: none"> ・事業終了後の自律的な運営に向けて、工学基盤機器の外部利用の制度設計を行い、利用料収入が伸びていることから、資金計画は優良と判断される。本事業での雇用職員の継続雇用も見えており、評価できる。 ・工学基盤機器の利用制度は民間企業にとっても、ありがたい制度である。 ・内閣府事業による産学連携体制の構築と本事業の効果的な活用により民間資金の獲得に成功しており、今後の発展も期待できる。 ・収入増に向けて、国際連携、イノベーション創出という観点で連携をさらに深化させてほしい。
⑥ その他の政策との連携	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォームとの連携や、産学連携活動など積極的に取組がなされている。 ・年間契約で工学基盤機器を共用する企業との共同研究を実施していることは高く評価できる。 ・分野融合、新領域拡大、スタートアップ支援等については今後期待したい。
⑦ 外部連携、国際化	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・中国地方ファシリティネットワークを構築して地域の連携を進めることは、地方創生の視点からも意義が大きいと言える。本ネットワーク等との更なる連携を期待する。 ・WPI プログラムとの連携を進めており、外国人研究者の機器利用にも対応している。 ・今後、コアファシリティを中核とし、イノベーション創出に資するような、外部連携・国際連携（国際的な組織連携等）について、連携自体の相乗効果も含めて具体的な提案を期待したい。
備考	なし